

現代ビジネス

スタートアップニッポン

日本が世界を動かす

日本が世界を動かす

2012年03月26日(月) 赤羽 雄二

SXSWが世界を動かす



著者



コラム



共有



A 文字



印刷



RSS



ツイート

39



+1

0



いいね!

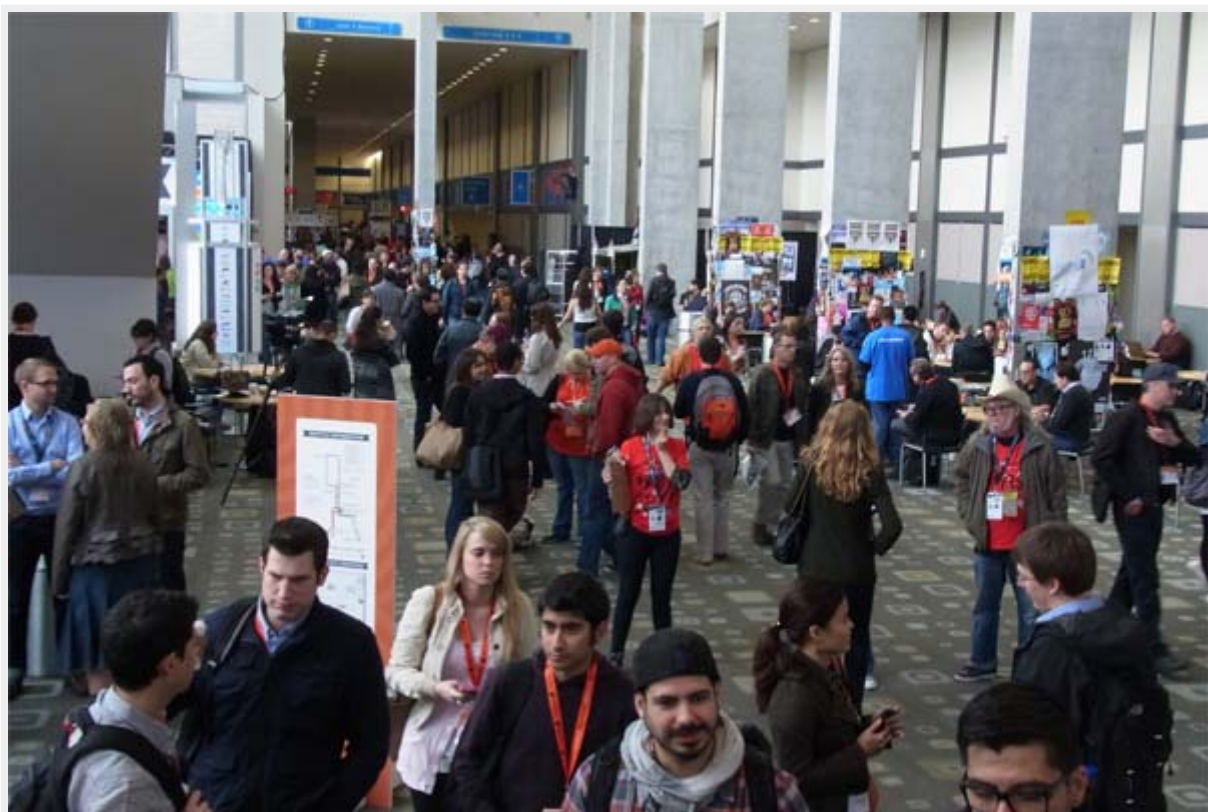
64

SXSWとは

3月9日から16日まで、米国テキサス州オースティンでSXSW2012(サウス・バイ・サウスウェスト)が開催された。1986年に始まったSXSWは初回700名だったが、現在では数万人以上集まる世界最大の音楽祭典だ。インターネットの発展を踏まえ、1998年からはインタラクティブ部門が始まった。

インタラクティブ部門には、昨年2万人が63カ国から参加、935のセッションが開催されたが、今年は、さらに成長し、速報値では3万5000人との話もあった。音楽・映画部門も含め、今年は25万人がオースティンに集結したと言われている。

インタラクティブ部門では、徒歩10分圏内の15のホテル、会議場を主要会場としてほぼ借り切り、3万5000人が一日中ワークショップ、セッション、トレードショウ、キーノートスピーチなどに参加して、渋谷のハチ公前程度の混雑が深夜まで続く。中心のオースティンコンベンションセンター(下の写真)は、1000名以上入るかと思われるホールが建屋の一部にしか過ぎないような巨大会場で、街の1ブロック全体を占めている。



新進ベンチャーの登竜門として、SXSW Interactive アクセラレータープログラムが2009年に開始された。今年は、650ものチームが応募し、モバイル、ソーシャルメディア、エンターテインメント等の6分野に8社ずつ、48チームがVC等の審査員へのプレゼン機会を得た。翌日の決勝では、6分野3社ずつの18チームがプレゼンし、分野ごとの優勝を決めた。申し込み費用はわずか\$175であり、非常に敷居が低い。かつチャレンジ度は高い、理想的なものだ。

参加ベンチャー間の交流も活発で、こういう切磋琢磨かつベストプラクティス共有の機会から、有望ベンチャーがさらに競争力を増して巣立っていく。

部門ごとに表彰されるインタラクティブアワードは、Activism, Amusement, Art, Business, Classic, Community, Educational Resource, Experimental, Film/TV, Motion Graphics, Music, Personal, Social Media, Student, Technical Achievementの15部門からそれぞれ選出された。

毎年8月に募集、11月から審査が開始され、1月に各部門ごとに5つのファイナリスト(決勝進出)が選定される。日本からもベンチャー10社近くが応募したと思われるが、ファイナリストにまで残ったベンチャーは残念ながら1社もない。SXSW2013に向けての準備がすでに開始されている。

インタラクティブアワードの中では、デジタルトレンド特別賞(SXSW期間中に一番話題になったアプリ・サービスが受賞)が、SXSW内外で大きな話題を呼ぶ。

2007年にTwitter、2008年にFoursquare、2011年にはGroupMeが受賞した。今年は、写真コレクション・共有で日本でも人気急上昇中のPinterestだ。前評判では、人気ブロガーに押された、出会い系とも言えるHighlightの人气が高かったが、使いにくさ等の理由から脱落し、SXSW2012としては特に目立っていなかったPinterestが受賞したのは興味深い。

SXSWが世界を動かす

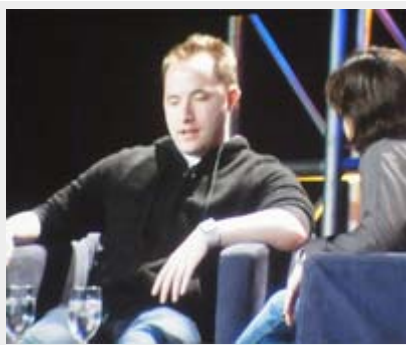
SXSWで見逃せない講演

開催中見逃せないのは、一番ホットなアプリ・サービスの創業者やCEOが次々に講演をしてくれること。今年は、リリース6日で10万ダウンロード、1年半弱で2700万ダウンロードを達成したカメラ撮影・共有アプリ Instagramの共同創業者2名が熱く語ってくれた。

AppStoreの審査通過後、リリースする前に著名なデザイナー100名に勝手に連絡し依頼したところ、予想外に多くの方に使ってもらい、バズを広めることができたとか、初日に25,000ダウンロードを達成し、これは来るぞと思ったとか、サーバー負荷の大変さ等、裏話をすぐ目の前で聞くことは、記事で読むのとは断然違う迫力だ。

スタンフォード大学卒業生の二人のまだ初々しさの残るストーリーは、モバイル先進国の日本だからこそ、スマートフォンの大ヒットアプリが絶対出せるはず、絶対出すべき、という気にさせてくれた。

また、5000万以上のユーザーを持つファイル保存・共有アプリDropBoxの創業社長、ドゥルー・ハウストンのトークセッションも印象的だった。



5歳からプログラミングを始めた天才ハッカーにより生み出されたDropBoxは、スティーブ・ジョブズからの買収提案を蹴ったことでも有名だが、3600億円の時価総額評価で、200億円の資金調達をし、話題を呼んだ。

競合相手が無数にいる中に2007年に参入し、高い技術力で一気に頂点に駆け上った。4%の課金ユーザーからの収入が200億円に達している。Y Combinatorの最優秀卒業生として有名で、Y

Combinatorについては、近々詳細にご報告する。

デジタルトレンド特別賞を取ったPinterestの創業社長の控えめな人柄にも親しみを感じた。リリース後、わずか数年で1100万ユーザーを獲得し、1月には、米国での月間ビジター数が1600万人を超えた。Facebook、Twitterにつぐ影響力を持ち始めたと言われていた。APIの公開も間近で、プラットフォーム化が着々と進んでいる。

ナプスター創業者でFacebook初代社長であったショーン・パーカーと、米元副大統領のアル・ゴアといった大物対談を目の当たりにできるのも、SXSWの魅力だ。

米国におけるSXSWの貢献

IT、モバイル、ソーシャルメディアの事業、マーケティング、投資に関心のある数万人が毎年オースティンに1週間集まり、無数のセッション、ワークショップ、パーティーを通じて知り合い、商談を行う。新しい考え・アプローチが発表され、共感され、試され、広まっていく。このメカニズムと規模は尋常ではない。



多くのインターネットベンチャーが毎年3月のSXSWに焦点をあてて、サービスを開発し、何ヶ月も前からプロモーションを行い、口コミを広げ、乗り込んでくる。SXSWがそれらの活動に対し、最高のお披露目の場を提供している。お披露目だけでなく、投資家とベンチャーの出会い、最先端のアイデアの交換、チーム作りがここにある。

Twitter、Foursquareとも、SXSWの存在がなかったら、成長はずっと遅れたはずだ。去年のGroupMeも、今年のパinterestも、SXSWの結果、事業展開が加速される。



米国のすごさは、シリコンバレーでのベンチャー創業の生態系が確立しているだけでなく、同様の動きがニューヨーク、ボストン地区でも起き、ここテキサス州オースティンでも起き、年1回、SXSWに結集する。各地域での活発な起業・起業支援活動と、SXSWという大祭典との組み合わせが、米国の新事業創造を加速させているのは間違いない。

SXSWへの日本からの参加

SXSWのメインイベントの一つであるトレードショウへの日本ベンチャーの参加は、2010年まではゼロ、2011年は8社、今年は一気に18社と急増している。日本からの参加者数も200名を超えた見込みだ。頓智ドット井口会長の旗振りで、昨年来、日本のベンチャー間では、SXSWへの意識が急激に高まっている。

去年のキックオフイベントには300名以上が参加した。インタラクティブアワードにも、Interactive アクセラレータープログラムにも、昨年競って応募した。

この動きはさらに加速・拡大している。4/5(木)には、SXSW2012の帰朝報告とSXSW2013に向けてのノウハウ共有を目的とした大イベントを企画している。ご関心のある方は、ぜひご参加いただきたい。

私が運営統括をしているブレイクスルーキャンプ by IMJは第1期であるWinterプログラムとして5社への出資を確定したが、4/1に募集開始するSpringプログラム以降、SXSW2013に10社以上参加すべく、世界で勝つ有望ベンチャーの発掘・育成をさらに徹底していく。

ご意見、ご質問はakaba@b-t-partners.comまでお気軽にお寄せください。すぐお返事します。

また、時間の許す限りお会いして、意見交換もさせていただきます。より詳しい情報はこちらをご覧ください(www.b-t-partners.com)